

(一般質問)

質問日	令和4年12月2日(金)		質問方式	分割方式			
質問順位	6	会派名	自由民主党浜松	議席番号	14	氏名	露木 里江子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 本市における特色ある農業施策の推進について	<p>2019年に「浜松市農業振興ビジョン」を策定し、オール浜松で「もうかる農業」を実現するための施策が推進されている。新型コロナウイルス感染症やウクライナ問題など、施策を取り巻く状況も変化する中、2025年度以降の改訂について準備していることと思う。</p> <p>こうした変化の中、大規模農家と小規模農家の二極化が進んでいると言われているが、農地を守っていくためには、双方をうまく組み合わせていく必要がある。とりわけ、本市の特性から「小さな農業」に注目している。</p> <p>また、本市が先進的に取り組み、2024年に20年の節目を迎える「ユニバーサル農業」は、都市型、小規模の農業とも親和性が高く、より一層の事業推進を期待している。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 農業振興ビジョンのこれまでの進捗と改訂に向けた取組について伺う。</p> <p>(2) ユニバーサル農業 20周年に向けた取組について伺う。</p>						清水農林水産担当部長
2 国道1号浜松バイパスの立体化と円滑な生活交通の確保について	<p>国道1号浜松バイパスについては、長鶴から中田島の立体化及び現道拡幅が事業化され、今年度から地質調査が開始されている。</p> <p>これにより、国道150号交差点などの立体化区間においては慢性的な渋滞の解消が期待できる。</p> <p>しかし、現状でも国道1号の東に工業団地や中央卸売市場があるため、国道1号と交差する道路では、朝・夕のピーク時において、慢性的な渋滞が起きている。今回の事業により、高架区間を利用するために飯田街道や掛舞線から国道1号に進入する車両が、著しく増加すると予想される。このため、周辺地域における円滑な生活交通の確保ができないと考える。</p> <p>また、台風15号により国道1号やその周囲が広く冠水し、車両水没が多発した。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 高架化の起点の道路渋滞対策等として、交差点改良が必要と考えるが、いかがか。</p> <p>(2) 国道1号の道路の排水計画が必要と考えるが、いかがか。</p>						伏木土木部長
3 災害に対する備蓄について	<p>(1) 災害時のトイレ環境は非常に重要な課題である。災害の大きさにもよるが、仮設トイレが避難所に行き渡</p>						小松危機管理監

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>るまでに数日かかることもあり、簡易トイレの備蓄が各避難所等でも家庭でも重要であると認識している。仮設トイレのほか、下水道総合地震対策計画に基づき整備を進めているマンホールトイレは、衛生面で水洗トイレに近い環境を迅速に確保できると考える。そこで、マンホールトイレの整備の状況と仮設トイレ、災害用トイレ等の備蓄の状況について伺う。</p> <p>(2) 食料として備蓄されているアルファ化米などはもちろん賞味期限があるが、その使用方法も含めて周知し、有効に利用していくべきと考える。そこで、避難所や防災倉庫に備蓄されている賞味期限近くのアルファ化米の有効利用について伺う。</p>	
<p>4 スタートアップと地域との融合によるイノベーションの創出について</p>	<p>本市はスタートアップ推進施策により、ものづくり企業をはじめとした地域企業とスタートアップのアイデアの融合によるイノベーションを促進するためスタートアップの誘致を進めてきた。</p> <p>国のスタートアップ政策により、全国各地でスタートアップ誘致が活発になってきた中で、他都市との差別化、都市間競争に勝ち抜く必要があると考える。本市は国土縮図型都市であり、高度なものづくり技術を有する。この特徴を生かし、本市の社会課題の解決や、スタートアップと地域企業との融合の現状と今後の方針について、以下伺う。</p> <p>(1) スタートアップ等と地域企業の融合について伺う。</p> <p>(2) スタートアップによる本市の社会課題解決の取組について伺う。</p>	<p>加藤スタートアップ推進担当部長</p>
<p>5 誰もが思いを伝えられ、安心して暮らし、訪れることができるユニバーサルシティの推進について</p>	<p>本市はいち早く多文化共生に着手し、全国に先駆けてユニバーサルデザイン条例を制定するなど、ユニバーサルデザインの推進に取り組んでいる。</p> <p>先日、あるろうあ者から、最近導入されたあるコンビニエンスストアの指差しシートが、大変便利で広めてほしいと要望を受けた。コロナ禍により感染対策としてマスクを着用しているため、口の動きが分からず苦勞していたが、レジ袋の要、不要など絵が書いてあり指を指すことで自分の意思が簡単に伝えられたと喜んでいた。</p> <p>外国人や障害のある人、高齢者などあらゆる人が快適な生活を送るためには、自分の思いが伝わるのが大切なことである。他にも様々なコミュニケーションツールがあり、それらの活用は様々な立場の人がスムーズに意思疎通を行うために有効であり多様性の尊重に繋がるものである。行政としてこうしたコミュニケーションツールの積極的な周知や活用の啓発に取り組むべきと考える。そこで、以下伺う。</p>	

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	<p>(1) 誰もが分かりやすく使いやすいコミュニケーション支援ツールの活用、周知啓発の取組について伺う。</p> <p>(2) 全国から様々な人が訪れる大河ドラマ館においても、誰もが分かりやすく使いやすいコミュニケーション支援ツールの導入などユニバーサルデザインを取り入れる必要があると考えるが、取組について伺う。</p>	<p>奥家市民部長 鈴木観光・ブランド振興担当部長</p>
<p>6 子育て支援と子供の多様な居場所について</p>	<p>核家族化の進行や長引くコロナ禍で、子育てに悩んだり人との交流を控えたりする子育て世代の増加が懸念される中、ニーズに合ったタイムリーで、かつ効果的な情報発信が重要と感じている。</p> <p>また、子育てしやすいまちであるためには、親子の居場所、就学後においては子供の放課後の安心な居場所が必要であると考えます。そこで、以下伺う。</p> <p>(1) 子育て情報について本市では、紙媒体やデジタルを活用した様々な手法で発信を行っている認識しているが、情報発信の現状と本年度からリニューアルした子育て情報サイトの効果について伺う。</p> <p>(2) 放課後児童会の拡充がされているが、放課後児童会を補完する、登録児童以外の子供の放課後や夏休みの多様な居場所確保について取組と課題を伺う。</p>	<p>吉積こども家庭部長 田中学校教育部長</p>